

1. 土地利用の特性と課題

1-1. 土地利用の特性

本村の村土における土地利用の特性は、以下に示すとおりとなっています。

①日本最北で道内一広い村である。

北海道の最北部、宗谷支庁管内に位置し、東西28.6km、南北34.4km、総面積590.00km²を有しています。

②総面積の約80%が「山林その他」で占められている。

土地利用を地目別に見ると「山林その他」が462.75km²であり、総面積の78.44%を占めています。

③東にオホーツク海、西に丘陵性山地を有している。

東側のオホーツク海に面した海岸線は33.4kmの長さを有し、西は丘陵性山地を境にして他市町と接しており、中央部は大規模な酪農が行われている広大な牧草地帯となっています。

④森林地帯を源とする河川には「イトウ」が棲息している。

オホーツク海に向かって流下する猿払川、狩別川、猿骨川などの多くの河川の中には、優れた自然環境のバロメーターである「イトウ」が棲息する水辺もあります。

⑤北オホーツク道立自然公園を有している。

北オホーツク道立自然公園内には、モケウニ沼、カムイト沼等の大小の湖沼やエサヌカ原生花園等の湿地が点在し、豊かな自然環境・景観を有しています。

⑥宗谷圏における広域観光ルート「オホーツク観光ライン」が設定されている。

広域観光の振興を図るため、宗谷圏における「オホーツク観光ライン」が海岸線の国道238号沿線において設定されています。

⑦大小11の集落地が散在している。

行政・医療・福祉機能が集中している鬼志別、漁港を中心とした知来別・浜鬼志別・浜猿払、酪農を主体とする浅茅野台地・狩別・芦野・豊里、そして浅茅野・猿払・小石の大小11の集落地が広い村土に散在しています。

第5章 土地利用の特性と課題

1-2. 土地利用の課題

本村の土地利用の特性や村民の意向を踏まえながら、本村の土地利用における課題を整理すると以下のようになります。

